

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>法人の理念を基本にして、スタッフ間で見直しを行い利用者が必要とするサービスを提供し地域のニーズにあつたものをつくっていく。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>管理者とスタッフは理念を共有し同じ目標に向かって話し合い、行動するよう努力し実践にむけて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>理念を見やすい場所に掲示し、ご家族が来訪時わかり易く理念を理解していただけるよう取り組んでいる。</p>	○	民生委員・ボランティアの方には、運営推進会において詳しく説明をして理解していただいている。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>近くの市場への買物、病院へのリハビリ通院、隣近所への散歩、美容師さんによる訪問カットなど、日常的なつきあいができるよう努力している。</p>	○	気軽に立ち寄ってもらえるよう集会場を開放している。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>地域の一員としてホームに慰問を受けたり、ボランティアの人々と交流したり、地域活動の夏祭りにスタッフが参加したりして地元の人との交流に努めている。</p>	○	地域の方と地元白鳥太鼓、幼稚園児・保育園児のクリスマス会、雛祭り慰問、民生委員さんの慰問など定期的な交流を計画している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の施設として地域の高齢の方などの暮らしに役立つことがないか、話し合い施設見学などを受け入れている。	○	地域の自治会、民生委員が団体で見学され、認知症についての質問や悩みなどを話している。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活かして具体的な改善につながるよう日々努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議を行い市包括支援センターの職員、地域の方、利用者のご家族の参加をいただき、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの質の向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携を重視している。また、いろいろな情報をいただきサービスの質向上に取り組んでいる。	○	市町へ行き来する機会をつくっていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、スタッフは必要な人には資料を提供し活用できるよう支援している。	○	運営推進会議で市・町の方に詳しい情報や資料をいただき説明をお願いしている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、委員会活動を通じて話し合い、虐待が見過ごされないよう注意を払い、阻止に努めている。	○	勉強会を通じて虐待防止の徹底を図りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に本人、家族に見学していただき、利用者や家族の不安・疑問点をお聞きし、十分な説明を行い理解、納得を図っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「柙会」全体で第三者委員会を設置し、ホームの見やすい所に明示して入居者に説明をしている。また、苦情箱を窓口を用意し運営に反映させている。	○	入居者の不満・苦情などを見過ごさず受け止めていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、個々に家族報告書を作成し、入居者の暮らしぶりや健康状態、健康管理、金銭管理などについて家族に報告をしている。	○	健康面での変化や緊急受診などは、家族の方に電話して対応している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で家族の要望、意見、苦情などをうかがっている。また、玄関に苦情受付箱を用意し、その意見は運営に反映させている。	○	家族会や運営推進会議においては家族代表が意見、疑問などを話されそれを運営に反映させている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを行い、その都度意見や提案を聞く機会を設け反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者や家族の状況の変化、要望に常に柔軟な対応ができるよう勤務の調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者が馴染みのスタッフによる支援を受けられるように、異動は最小限に抑える努力をしている。異動の場合は入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	○	ホーム内の移動の場合、普段から顔なじみもあり入居者に理解いただいたり、家族の方にはお手紙などでご挨拶をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を計画をして受ける機会を提供している。疑問点があれば、管理者に相談ができ働きながらトレーニングしていることを進めている。	○	事業所内の研修計画を立て、参加を勧めている。また、毎年1名、認知症介護研修を受講しサービスの質向上に取り組んでいる。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設との相互訪問等を通じてサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフ相互の親睦を図っている。スタッフのストレスが軽減できるよう常に努力している。また、午前・午後のお茶の時間はスタッフも一緒に休息を取っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ユニットごとのミーティングをし、意見交換をしている。運営者はいい相談員となり各自が向上心をもって働けるよう努めている。	○	スタッフ個々の実績・努力を把握し、認知症介護研修の受講を勧めている。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでに、本人自身からゆっくり話を聴く機会をつくり、アドバイスをしながら信頼関係が築けるよう努力をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでに家族との対話を通じ、てアドバイスをしながら今後の方向性を明確にし、受け止める努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向を大切に、本人と家族が必要としている支援を見極める。他のサービス利用も意向に沿う支援に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気に馴染めその人に合ったケアが提供できるよう、本人、家族と相談しながら支援している。	○	入居の必然性のある人には、環境に慣れるように何度も施設を見学してもらっている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは一方的な提供者でなく入居者のパートナーとして関わりをもち、本人の生活記録を引き出し話題作りに取り組み支えあう関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは、家族との連携を密にし、連携を図ることで家族の思いを感じ取り、支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会を開催したり、運動会・夏祭りをして違った一面を見ていただき、心のふれあいを支援している。	○	家族会にはほとんどの方が参加している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院のリハビリ通院などで地域の人との関係を維持し、途切れることのないよう支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日中、食事・おやつ・お茶の時間はなるべくホールで一緒に過ごしてもらい会話を楽しんでいる。スタッフは常に目配り、心配り、気配りをして入居者同士が関わりあい、支え合えるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院などでお会いした時、ご家族に様子をうかがったりして、退居後も関係を断ち切らないお付き合いを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当を決めて一人ひとりの生活状態、本人の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は日々観察やカンファレンスを行い、本人本位に検討している。	○	普段から会話にも気を配り思いを受け止めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活状況、生活環境(職歴・趣味など)、馴染みの暮らし方などの把握に努めている。また、その人らしい生活を送れるよう支援している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の状態に応じた対応や声かけをし、日々のシグナルを見落とさないよう総合的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者がより良く暮らすために、本人・家族などと話し、それぞれの意見を反映できるようカンファレンスを行い、具体的な介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、入居者の状態に変化が生じた場合は見直しを行っている。本人・家族などと話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの結果、スタッフの気づきや工夫を具体的に記録し、情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	関連施設として、特養・ナーシングホーム・ケアハウスなどがある。また、協力医療機関として病院があり、本人の状況に合わせて柔軟な支援をしている。	○	訪問歯科、リハビリ通院などを含めて入居者のニーズにあった事業所の多機能性を活かした支援に努めたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意思や必要性に応じて、近隣の住民、ボランティア、民生委員などと協力しながら支援をしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前に利用されていたデイサービスに、入居後も利用の意向がある場合、他のサービス事業者と話し合い、サービスを利用するための支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	対象者があれば協働していく。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の希望のかかりつけ医(協力病院)との連携を密に、心身の変化、異常時に適切な医療が受けられるよう支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関の主治医による指示、助言がある。また、第一木曜日に、心療内科医師(認知症専門医)による外来受診を受けられるよう支援している。	○	月に1回、認知症の専門医による診断や治療を今後も継続していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に2回、協力病院の看護師の訪問があり、その都度気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	○	今後も継続していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	普段より医療機関と連携を図り、入院中には面会に行き情報交換や相談に努め、早期退院できるよう情報を聞き把握している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階からかかりつけ医、家族との話し合いのもと、全員で方針を共有している。また、重度化・終末期についても検討や準備を行っている。同意書にサインをいただいている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	施設での対応ができる範囲を見極め、協力病院との連携において指示・アドバイスをもとにチームとして支援に取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の施設に移り住む場合、家族や他の施設のケアマネジャーなどで十分に情報交換をし、ダメージを防ぐことに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>入居者の誇りやプライバシーを配慮した言葉かけや対応、記録等を心がけている。個人情報の扱いについて同意書にサインをいただいている。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>意志表示の難しい方には、ゆっくりと時間をかけ働きかけたり、それらを納得しながら暮らせるよう支援をしている。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>スタッフ中心の支援でなく、入居者それぞれのペースを大切に、その人らしく本人の希望に沿った暮らしができるよう支援をしている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>自分の好きな洋服を選んでもらい、その人らしい個性を大切にし、髪型や服装やアクセサリーが身に付けられるように支援している。理容・美容共に馴染みの店に行っている。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>毎食、スタッフも利用者と同じ食事を一緒にとり、会話をしながら味付けなど好みをうかがったりしている。食べ方の混乱、食べこぼしの多い方にはさりげなくサポートしている。</p>	○	<p>盛付、お膳拭き、下膳などのお手伝いをしてくださるので、今後も継続していきたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>本人が望むものを一人ひとりの状況にあわせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	○	<p>午前・午後のティータイムでお茶、コーヒー、紅茶を選んだり、散歩の時、自動販売機で好きな飲み物を自由に選んでいる。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導の際もプライドに配慮した声かけを行い、自立に向けた支援をしている。	○	何気ない声かけでトイレの排泄を方向づけている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前にはバイタルサインチェックで体調を確認し、個々の希望やタイミングに合わせてくつろいで、入浴を楽しめるように無理のない誘導、声かけに努めている。	○	入浴の回数や時間帯は個々の希望に合わせるよう努力している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、不眠気味の方は一日の生活リズムを見直し軽い運動をしたり、ゆっくり入浴したりして安眠できるよう支援している。	○	夜間、眠れない方には、温かい飲み物を飲みながらお話をし、気持ちの安定を図っている。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の方の生活歴や残存機能を活かした役割分担(洗濯物たたみ・お膳拭き・台拭きなど)し、気晴らし(カラオケ・ゲーム・裁縫・散歩)をすることで生きがいを持った生活ができるよう支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者の方は自己管理ができないので、お小遣いは小銭のみ利用者が管理している。所持できる方は、病院の売店や買物に出た際、使えるよう支援をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に沿って、ドライブ、ケアハウスでの映画鑑賞、散歩、近くの店でのお買物などできる限り支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行けないお墓参り、自宅の仏様参りなど家族と一緒に出かける。近くの神社・寺参りは全員の方が希望され外出の支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレス電話なので、本人の希望により居室で自由にお話しができるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族などが気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう、スタッフが来やすい雰囲気、挨拶、笑顔の対応を心がけている。	○	来訪時は一緒に童謡を歌ったりする時間が多い。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に話し合っている。常に気配りをし、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	情緒の安定を図り、鍵をかけなくても危険がないケアに日々取り組んでいる。利用者が自由に出入りできるホームを目標にしている。	○	家族の希望により鍵をかけているが、昼食、おやつ、玄関掃除など日中鍵をかけないケアに取り組み、外出の回数を多くしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフは常に目の届く場所において、入居者一人ひとりのプライバシーに配慮しながら、所在や様子を把握している。台所も対面式で入居者の様子を見ながら食事の支度をする事ができ、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬・洗剤・刃物など注意の必要な物品については保管場所を決め対応している。	○	利用者の状態に応じて鍵のかかる場所に保管している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急マニュアルを作成しており、緊急事態の場合速やかに対処し、協力病院に連絡し指示を受けている。	○	定期的に勉強会があり、状態に応じた事故防止に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルを作成しており、緊急事態の場合速やかに対応できるよう、定期的に救急救命士による応急手当、初期対応の訓練を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練や避難訓練を行い、地域の民生委員を通して協力を得られるよう働きかけている。	○	防火訓練の実施を今後も継続して取り組みたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	目配り、気配りをしていても起こり得るリスクについて、その都度早期発見、対応策を検討し、家族に十分説明し理解を得ている。	○	転倒予防については協力病院の理学療法士、作業療法士に助言をいただいている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの体調の変化や異常のサインを見逃さないよう努力している。異常に気付いた際には情報を共有し、適切な対応に結びつけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の処方箋をファイルしているので目的・用法・用量は理解し、指示通り服薬できるよう支援している。また、申し送り時に服薬と症状の変化の確認を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表をもとに便秘予防に努めている。予防と対応のため、水分量の確認、体操、散歩などで身体を動かす働きかけに取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、就寝前の歯磨きは習慣となっている。一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。義歯の方は洗浄液で消毒し、清潔に管理している。口腔ケアについては、希望者のみ週に1回、訪問歯科を受診できる。	○	歯科衛生士を中心に口腔ケアの研修会を今後も継続させたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回水分、食事摂取量をチェックし、一人ひとりの状態や力、習慣に合わせ支援をしている。嚥下困難な方にはきざみ食やおかゆなど工夫している。	○	栄養士が献立を作成をしているので、今後も栄養バランスを確保できるよう継続して管理していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、実行している。	○	インフルエンザの時期にはスタッフも予防注射をし、流行時はスタッフも体調を整え、うがい、手洗いをしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、食器は食洗機を利用し、まな板・布巾・台拭きは毎日塩素系消毒剤で消毒し、衛生管理に努めている。毎日、業者が新鮮な食材を配達している。	○	冷蔵庫の食材の賞味期限のチェックは毎日している。検査は一週間保存している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関横のベランダには花・植木を置き、玄関廻りには四季折々のお花が咲いている。玄関ドアの可愛い風船のイラスト入りの表札が、親しみ易く優しい雰囲気を表している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に落ち着いた色調で、ホールは開放的でお花や共同制作のちぎり絵を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。台所は対面式になっているので利用者の様子を配慮しながら、食事の支度ができる。	○	天窓には光の調節ができるブラインドを付けている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共通空間の中にはホールと和室があり、他の入居者と話したり作業をする空間と、掘りごたつでくつろぎテレビを見たりする空間があり、それぞれの居場所を確保できるよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活で馴染みのある家具などを持参していただき、自分の家のように居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	お部屋には手作りカレンダー、家族やホーム利用者達との写真を飾っている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	季節や天候を問わず窓の開閉をし、換気には配慮している。温度調節は外気と差が出ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ(身障者用トイレあり)・浴室などに手すりが設置されている。流し台の高さは入居者の使いやすい低めの高さ、洗面台も車椅子のまま利用できる。玄関はスロープになっており段差がなく車椅子移動も可能である。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者が混乱することのないよう本人の残存能力を活かし、状況に応じて必要な援助をし、自立して暮らせるよう支援している。	○	居室には可愛い動物のイラストを貼ったり、トイレの出入り口には大きな矢印を床に貼り、分かり易くしている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関横のベランダでは入居者がプランターに花を植えたり、建物の廻りを散歩したり、建物の東側には物干し台があり、入居者と共に洗濯物を干すなど活動できるよう支援している。建物の南側には家庭菜園があり、入居者は収穫を楽しみにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		○ ③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		②少しずつ増えている
		○ ③あまり増えていない
		④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が
		②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が
		②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

①利用者にとって地域の一員としてゆつたりとした自由な暮らし、穏やかで安らぎのある暮らし、自分らしさや誇りを保った暮らしを最後まで過ごせるような支援を心がけている。

(夏祭り、運動会、お花見など季節の行事、地域の方の慰問、家族会などを通じて、今後も地域の中で信頼される施設として日々努力していきたい。)

②隣接する協力病院との連携により、利用者の日々の健康管理、緊急時の対応など安心していただける体制をとっている。